

## 平成27年度行政評価委員会 議事要旨

会議名	第3回葛飾区行政評価委員会第二分科会
開催日時	平成27年7月23日(木) 午前10時から12時
開催場所	葛飾区役所5階 庁議室
出席者	【委員7人】 小松原会長、江川委員、大山委員、村上委員、谷本委員、長谷委員、町田委員 【区側7人】 事務局(経営改革担当課長、事務局職員3人) 育成課(育成課長、育成課職員2人)

### 会議概要

#### 1 開会

(事務局より資料の確認を行った)

#### 2 事務事業の概要説明及びヒアリング

##### 「赤ちゃんの駅事業」

(育成課より「赤ちゃんの駅事業」の概要について説明した後、質疑応答)

A委員 : 赤ちゃんの駅という名称は、育児支援ガイドブック以外ではどのように出産された方に認知してもらうのか。

育成課 : 広報かつしか、区HPでの周知を行っている。

A委員 : すべての公共施設に整備されているか。

育成課 : 区民の集まる施設には、おおむね整備している。

B委員 : 近所の地区センターに行ってみたが、のぼり旗もステッカーも無い施設があった。本事務事業にかかる人件費で、設置している施設をすべてチェックすることは可能なのか。

育成課 : 屋外に掲げるのぼり旗については、毎朝設置して夕方には撤去するという形にしている。毎朝設置されているかのチェックは現実的に不可能である。設置にあたっては各施設に依頼をしているので、管理者に任せているところではあるが、ステッカーについては確認不足であった。今一度点検をしたい。

小松原会長 : 東京都事業の赤ちゃんふらっとについては、各区で実施するよう

指示しているものなのか。それとも、推奨しているものか。

育成課 : 都で定める条件に合致すれば各区に補助をされるといった形である。強制ではないが、できるだけ同じ形で推進するためのものである。東京子育てマップに掲載されるため、どこの地域にあるかわかかってしまう。必ずしも合致するものだけでなく、利便性を考えて、設置している。

小松原会長 : 新規設置に対して補助されるものか。

育成課 : 新規設置に対してであり、運営費に対して補助はない。

C委員 : 赤ちゃんの駅は区民向けに設置するものなのか。

育成課 : 基本は区民向けだが、イベント等に設置している例もあり、区民だけが対象となるものではない。

C委員 : 水元公園には親子連れの方が多く訪れているが、水元公園周辺には赤ちゃんの駅が無いようである。

育成課 : 水元公園は東京都の管轄であるため、設置していない。区での整備しやすさの面から考えて設置を進めているところである。

D委員 : 最終目標は何か所に設置することなのか。

育成課 : おおむね500mに1か所として整備を進めてきた。区民が外出した際に、使える場所にあることが望ましいが、繁華街には必ずしも設置されていないというのが現状である。

D委員 : 最終目標は必要ではないか。大型店舗には設置が進んでいるのか。

育成課 : 自主的な設置がされている。

D委員 : 公共と民間を合わせてどれくらい整備されているのかということが、利用者として知りたいことではないか。赤ちゃんの駅という名称もわかりづらく、「授乳室」が良い。そのことも含め、区と民間企業を合わせてどれだけ整備されているのかを周知していくことが利用者にとって良いことなのではないか。

E委員 : 児童館に整備されているとのことだが、一般の方は児童館には入りにくいのではないかと。もっと入りやすい施設に設置した方が良いのではないかと。地区センターは入りやすいが、ほとんどのぼり旗が立っていない。また、区HPで調べられるとのことだが、授乳は準備してから外出できるが、おむつの取り換えは、事が起こって初めて場所を探すことになるため、事前に調べる方はいないのではないかと。

B委員 : 近くの児童館では、設置場所が3階であった。区役所の設置場所も4階の奥であり、利用者にとっては便利とは言えない。また、案内が十分とも言えず、利便性に配慮しているとは言い難い。設置箇

所については、画一的に500mに1か所ずつ設置していくことにも疑問がある。利用頻度が高そうな箇所に重点的に整備する等の工夫が必要ではないか。利用がない所をやめることがあっても良いのではないか。

PRについては、一般の広報紙に掲載することが有効な手段と言えるのか。もっと子育て世代向けのPRを検討していくべきである。ランニングコストについても考えるべきである。

F委員  
育成課 : 同様の設備設置に取り組んでいない区の発想はどのようなものか。  
: 自治体によって判断が異なり、民間施設で整備が進んでいる等の事情があると考え。本事務事業は、コストはかかるが効果は検証しづらいため、自治体によって考え方の違いがあるものと考えている。

F委員 : 300か所に設置しているという自治体は、簡易なものを設置しているのか。

育成課 : そのとおりである。本区では、おむつ替えベッド、授乳スペース、調乳の3点セットがいずれも行える場所をなるべく整備している。誰でもトイレに設置されている折り畳みベッドもカウントすれば、本区の整備箇所も相当増える。

F委員 : 赤ちゃんの駅でなくとも、簡易なものに対しても別のステッカーを与えるなどすれば、整備箇所は広がっていくのではないか。必要な事業だと思ふため、区が考えた基準だけでなく、もっと広げていくための取組みを考えた方が良い。これからは、スマホ利用の方向ではないかと思う。

育成課 : 別の要素を作ると、利用者にとってもわかりづらくなる可能性もあるため、ある程度のカテゴリ分けが必要である。誰でもトイレには簡易ベッドがあり、それで十分だという声もある。赤ちゃんの駅や誰でもトイレがどこにあるのかということをいかに知ってもらおうかということが重要だと考えているため、育児支援ガイドブックのデザインを変えて手に取って読んでもらえるようにした。

F委員 : 公共サインの中に色々な形で貼り出して周知してはどうか。区全体の地図というよりは、地域ごとの周知の方が有効なのではないか。

育成課 : 区の公共サインについては、現在見直しを行っているところではあるが、様々な事項をお知らせしなければならない中で、特定のマークをどこまで表記できるか。案としては、検討材料とさせていただきます。

- D委員 : アンケートを行ったことはあるか。
- 育成課 : 子育て支援に関するアンケートは取っているが、赤ちゃんの駅に関する実態は把握できていない。保育園や児童館で利用した方にはアンケートを取っているが、利用されていない方、情報が届いていない方の意見が重要で、その方たちの声を聞きたい。出生児のいる全家庭に郵送でアンケート調査を行うこともコストがかかることなので、容易にできることではない。
- D委員 : 区民目線で見れば、事業実施のためには郵送でアンケート調査を実施することも有りなのではないかと感じる。  
おむつ替えをしたことがあるが、外に漏らしてしまったことがある。その点を考えれば、定期的なメンテナンスも行った方が良いと考える。
- 育成課 : 区役所内の赤ちゃんの駅では、鍵の開閉をする際に中を点検している。利用されるごとに点検することは難しい。
- D委員 : 大型店舗では、誰が清掃や点検を行ったのかをチェック表に記載している。その程度のことはするべきではないか。
- B委員 : アンケートは非常に重要である。実際に利用された方がどのように利用されたかや、どのような不満があったかが改善の参考になる。  
誰でもトイレの設置はどの部署で行っているか。
- 事務局 : 公園内の設置については公園課で行っている。
- B委員 : 誰でもトイレでおむつ交換ができるのであれば、その情報は知らせるべきではないか。利用者のニーズについては、アンケート調査を分析すればわかるはずである。おむつ交換のニーズの方が多いのではないか。周知については、冊子として配布するよりも1枚のチラシの方が有効ではないか。
- E委員 : 児童館については、施設の利用者以外の一般の方はほとんど利用していないのではないか。  
最近のおむつは品質が改良されており、頻繁に交換する必要もなくなってきたと思う。そのような中、どこまで整備を広げていく必要があるか。
- C委員 : 小学校や幼稚園への設置も検討できないか。
- 育成課 : 小学校や幼稚園については、安全対策のために一般の方は簡単に入出入りできないようになっている。子育てひろばを設置している保育園については、受付の職員が配置されているため、一般の方も出入りはできるが、学校ごとに構造も異なっているため、簡単

に設置はできないと考える。

C委員 : 小学校や幼稚園に設置できれば、どこに設置されていると言った案内の必要もなく、学校に行けば用が済ませられると思えるため、利用者も安心できるのではないか。

育成課 : 考え方としては大事だと考えるが、簡単に出入りできないようにしている一方で、施設を利用できるようにするとすると、コストをかなり投入する必要がある、難しいと考える。

A委員 : のぼり旗を掲げて広めていくことは、親からしても地域に見守られている安心感もあるため、良いことだと思う。事業としては、次のステップに行くべきだと感じる。そのために、大きくは3つの課題があるのではないかと思う。

1つ目は、設置目標をどうするかということである。1カ月平均で何人以上の利用者がいる施設に設置していくか等、指標を持った方が良いのではないかと思う。

2つ目は、内容や名称をどうするかということがある。先ほどまで出てきた名称だけでも、「赤ちゃんの駅」「赤ちゃんふらっと」「授乳室」「誰でもトイレ」と様々あり、整理が必要である。赤ちゃんの駅という名称もあまり広まっていない印象もあり、ある程度設置箇所が広まれば、名称は取り除いて誰でもわかる名称に変更しても良いのではないか。授乳室にこだわると、一定程度のスペース確保も必要となり、設置のハードルが高くなるので、誰でもトイレが設置されていれば良しとするなどの割り切りも必要と考える。

3つ目は、認知や周知をどうするかということである。紙媒体では情報が増える一方のため、情報を目にできる方とできない方の差が出てしまう。メルマガの登録等、子育て世代とつながる方法を導入し、必要な情報を知らせてはどうか。地区別の情報や、子どもの月齢によっても必要な情報は異なるため、様々な形で情報を発信できればいいと思う。

小松原会長 : 赤ちゃんの駅に関しては設置基準があるのか。

育成課 : 要綱等はない。民間施設に広めていく中では、協定等が必要だと考えている。

小松原会長 : 設備導入に関して補助を検討することはないのか。

育成課 : 経費が掛かることではあるが、イメージアップを含めたタイアップができればと考えている。

小松原会長 : 民間企業との具体的な協議は行っているのか。

- 育成課 : 個別には話がある。
- F 委員 : 事業を開始した当初に掲げていた長期的な目標はどのようなものであったのか。
- 育成課 : 当面は、公共施設に整備していくという目標であった。
- F 委員 : 公共施設にある程度整備できてきたことから、今が見直しの時期ということか。
- 育成課 : 一から見直しをするということではないが、今後さらに周知していくことが重要である。様々な情報がある中で、必要とされている情報を必要としている方にどのように届けていくかが重要である。
- F 委員 : 本当に困っている方にどのように情報を届けていくかの考えはあるのか。
- 育成課 : 本事務事業に関して言えば、母子健康手帳を渡す際や、最初の健診時にはほぼ全員の対象者と接触できる。そういったタイミングを捉えていきたい。
- C 委員 : おむつ交換の布団はみんなが使うものなので、クリーニングが必要である。もしくは、厚手の紙のような使い捨てシートを置いたりできないのか。そういったものがあれば1回ごとに替えられ、利用者が安心できる。
- 育成課 : 現在は、おむつ交換の際はアルコール消毒ができるマットを活用している。今後、重要な意見として検討したい。
- C 委員 : 今後は、人手を割いて点検を行ってはどうか。1日に何カ所か見回るなどして、衛生面でも現在よりは管理ができるのではないか。
- 育成課 : 施設には管理者がいるので、職員が見回りを行うというよりも、各施設管理者との取り決めの中で検討できると考えている。
- B 委員 : おむつ替えのための使い捨てシートを置いておけば、ある程度利用者数のカウントにもなる。設置が進んでいけば設置にかかるコストは減少するが、ランニングコストをかけると言った形で取捨選択は必要と考える。
- 赤ちゃんの駅という名称は、赤ちゃんに関することは何でもやってくれるという誤解も生みかねないため、再検討する必要がある。
- D 委員 : 写真を見ると、あまり清潔感が無いように感じる。もう少しコストをかけて設備を充実した方が良いのではないか。
- F 委員 : これまで、感染症等の苦情はあるか。
- 育成課 : 区内では聞いていない。
- D 委員 : 今後は、メンテナンスにコストをかけるべきではないか。

A委員 : コストはあまりかけるべきではないと思う。今後は、いかにコストをかけずに実施していけるかが重要ではないか。利用者としてはメンテナンスは必要だと思うが、管理する側も楽で、清潔な状態を維持できるのであれば、利用者がおむつ替えのマットを一拭きしましょうと推奨してコストをかけないといった形でも構わないと思う。

### **3 その他**

事務局より事務連絡

### **4 閉会**